

11/15,22

読書の秋に読書イベント多数開催  
しまね子ども読書フェスティバル in 西ノ島町

11月15日(日)「出張!おはなしレストラン in 西ノ島町」講師 小田川美由紀さん

幼児から低学年向けには、手遊びやパネルシアターを交えながら、絵本の読み聞かせを、中学年から高学年向けには、ブックトーク(テーマを設定しての本の紹介)をしていただきました。今まで経験したことのない本(絵本)の楽しみ方に、参加した子どもたちも大喜びでした。



11月22日(日)「えーさくおじさんの絵本をめぐる冒険」講師 岩田英作さん

親子を対象に読み聞かせと講話をしていただきました。一緒に声出して参加しながらの読み聞かせやめずらしい絵本の紹介に、子どもたちは楽しいひと時を過ごしました。また、保護者や読書活動関係者の方々は、先生の講話にうなずきながら、読み聞かせの大切さについて学ばれました。



12/2

地域振興と教育  
ふるさと教育講演会

12月2日(水)、中央公民館講義室において、ふるさと島根定住財団理事長の藤原義光氏をお招きし、「地域振興と教育の二兎を追う」をテーマに講演会を開催し、町内外から約70名の参加者がありました。

藤原先生には島根県職員や島根県教育委員会教育長としてのご経験を踏まえながら、数多くの事柄について熱い思いを語っていただきました。その中で、「生き生きとした活力ある町づくり」、「地域振興は地域信仰」、「前傾姿勢」など、今後、私たちが地域を活性化していくうえで必要な心構えについて、大いに参考となるお話をいただきました。



12/3

一足早いお正月準備  
みた保育園もちつき大会

12月3日(木)、みた保育園にて、職員・父兄・園児たちによる、もちつき大会が行われました。

10キロものもち米を前に悪戦苦闘しながらも、「ヨイショ!」という大きな掛け声にあわせ楽しくもちつきを行いました。

園児の中には、杵と臼を使った本格的なもちつきを見るのは初めてという子が多く、真剣に見入っている子もいました。

つきたてのおもちは、お雑煮やきなこ餅にして食べました。

年末からお正月に向けクリスマスやお正月など楽しい行事が多く、笑顔いっぱい園児たちでした。



11/28

これまでの医療功績が評価

白石裕子医師（浦郷診療所長）が「やぶ医者大賞」を受賞

へき地の医療に貢献している若手医師をたたえる「やぶ医者大賞」の表彰式とシンポジウムが11月28日に養父市で開かれ、浦郷診療所長の白石裕子医師が受賞されました。

この「やぶ医者大賞」は兵庫県養父市が、「やぶ医者」の語源が、養父の名医」であることになみ、地方で頑張る若手医師たちにスポットを当てる目的で昨年創設したもので、今回全国で2名の医師が受賞となりました。

白石医師は平成10年4月に西ノ島町に赴任し、日々の診療にあたることはもとより、乳幼児健診や学校医などの母子保健業務、地域住民への講演や学生教育など、予防・治療・介護など幅広い分野での活躍と後輩医師の育成などが評価されたものです。

今後、ますますのご活躍を期待しています。



12/7

イカ寄せ浜の伝説が再現？

西ノ島近海でスルメイカが豊漁

12月7日（月）、西ノ島町近海の定置網で、大量（約1万匹）のスルメイカが浦郷港に水揚げされました。

西ノ島・由良のイカ寄せの浜には、「神在月に出雲での神々の集まりから帰る由良比女命が、乗っていた芋桶から手を海水に浸していたところ、悪戯好きのイカがその手に噛みついてしまった。悪戯の詫びとして毎年大量のイカが浜によってくるようになった」という伝説があります。

奇しくもこのイカが大漁に水揚げされた日は、出雲を後にする神々を送る「神等去出祭」が行われた日でした。



12/17

「第八千鳥丸」進水式

町内初の試み 大型漁船の建造

12月17日（木）、有限会社共幸水産の新船「第八千鳥丸」の進水式が催されました。当日は新船のお披露目と神事、餅まきが行われ、集まった皆さんの方が新船の完成を祝っていました。

今回、建造されたのは、まき網漁業に利用される灯船（ひぶね）という種類で、漁場で魚を集めることを目的とする船です。そのため、漁場に到着するためのスピードはもちろん、安定性や静音性といった性能が必要とされ、それらの繊細なバランスも求められています。

建造には、有限会社上原造船所を中心に町内の造船所が協働で当たられておりますが、町内の造船所による大型漁船建造はこれが初めての取組となります。

これをきっかけに、高い技術力を全国に向けて発信し、本町の造船業と漁業の発展につながることを期待しています。

